

令和4年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 近代美術館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	255,500	人	未達	第3期教育振興基本計画に基づく年度別利用者目標値
				153,170	人		
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	37,850	人	未達	基準値: 37,422人<目標参考値37,849 R3年4期4月分: 1,784人、R4年1期: 11,126人、2期: 9,503人、3期: 6,762人、4期: 2,505人
				31,680	人		
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,870	件	達成	基準値: 1,869件 目標参考値: 1,869件
				1904	件		
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	44,863,000	円	未達	当該年度予算計上額
				38,404,775	円		

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数	32,240	人	未達	実施予定の企画展の予算積算人数 開館40周年記念展(令和4年度)/4,550人、田中保とその時代/9,924人、桃源郷通行許可証/6,825人、戸谷成雄/2,579人
				23,878	人		
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	44	校	未達	基準値: 43.3校 目標参考値: 43.3校
				28	校		
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	48	校	未達	基準値: 46.3校 目標参考値: 48.0校
				42	校		
4	子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	590	人	未達	感染拡大防止に最大限配慮した計画数12人×33回<586人(昨年度)
				566	人		
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	430	件	未達	基準値: 430件 目標参考値: 430件
				388	件		
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	1,064,810	件	未達	基準値: 925,117件 目標参考値: 1,064,810件
				829,836	件		
7	広報	広報成果	広報媒体での掲載件数	320	件	未達	基準値: 293件 目標参考値: 315件
				239	件		
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80.0	%	達成	MOMASコレクション1期: 98%、2期: 92.1%、3期: 99%
				96.3	%		
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80.0	%	達成	開館40周年記念展(令和4年度)91%、田中保とその時代95%、桃源郷通行許可証85%、戸谷成雄 彫刻93%(令和4年度)
				91.0	%		

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数  
 ※ 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値の1の位を繰り上げた数値  
 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>* 常設展の開催 収蔵品を中心にしたMOMASコレクションを4期にわけて開催。：1期・4月30日～ 8月28日、2期・9月3日～11月27日、3期・12月3日～ 2月26日、4期・3月4日～ 5月7日。収蔵作品の名品を中心とした「セクション」のコーナーのほか、調査研究に基づいた特集展示やテーマを掲げたコーナーなどを設ける。</p> <p>* 企画展の開催 年間4本の企画展を実施：「開館40周年記念展 扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」2月5日～5月15日、「シアトルーパリ 田中保とその時代」7月16日～10月2日、「桃源郷通行許可証」10月22日～1月29日、「戸谷成雄 彫刻」2月25日～5月14日</p> <p>* 教育普及事業 学校団体案内、授業協力、教材貸し出し、アーティスト派遣事業「ミュージアム・キャラバン」、ワークショップ「MOMASのとびら」、教員美術講座</p> <p>* 広報事業 ホームページ、ツイッター、フェイスブックでの情報発信。美術館広報紙「ソカロ」等の作成、企画展のポスター・ちらしの配布</p> <p>* 一般展示室の貸出 当館地階の一般展示室1～4において、団体展、グループ展、個展など、県民の作品発表の場を提供。</p>
事業の実施状況と経過	<p>* 常設展の開催 上半期の10月末までの観覧者数は19,462人で順調な実績であったが、下半期はやや伸び悩み、1月末現在の観覧者数は26,745人である。3月末の観覧者数は31,680となった。目標値の約84%である。</p> <p>* 企画展の開催 時宜に合った独自性のあるテーマで、企画展のラインナップを組むことができた。「開館40周年記念展」、「田中保とその時代」、「桃源郷通行許可証」は、いずれも当館のコレクションを活用した企画展である。「開館40周年記念展」では、開館当初からの当館の活動を振り返りつつ、これからの美術館の在り方を展望した。「田中保とその時代」は本県ゆかりの画家の久しぶりの回顧展として高い関心を集め、観覧料収入は当初予算額の108%を超える実績となり、図録は会期中に完売した。「桃源郷通行許可証」は6名の現代作家とコレクションとのコラボレーションを試みる意欲的な展示で、コレクションに対する新しいアプローチを提示した。</p> <p>* 教育普及事業の実施 学校関係については、コロナ禍のため多少の変更はあるものの、授業協力、団体案内などの依頼が多くなっている。しかし、希望する時期が重なることが多く、対応できないこともある。ワークショップは当面の間、人数を制限する必要があるが、より多くの参加者が楽しめるよう、複数のプログラムを異なる場所で実施する回などを設定したり、感染拡大防止対策をとりながら事前申込なしでも参加できる回を設定した。人数制限の緩和や新しいプログラムの開発など、今後のよりよい運営に向けて検討している。</p> <p>* 広報事業の取組 ソカロ等の発行・配布、SNSでのコレクションや展示会の紹介など、その都度適切な時期に情報を発信している。</p> <p>* 一般展示室の貸出 第70回記念「泉展」(6月1日～23日。観覧者数：23,104人)、第41回埼玉県高等学校写真連盟展(7月6日～10日。観覧者数：1,011人)、第65回埼玉県高校美術展(11月16日～20日。観覧者数：3,030人)など、86団体の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度は61団体の利用にとどまったが、令和4年度はコロナ禍以前に近い水準まで利用団体数が戻ってきており、県民に対して作品発表の場を提供することが出来ている。</p>
事業の成果	<p>* 常設展観覧者数は目標値の約84%であり、昨年度が好調であったことを考えると一定の水準は達成できた。企画性の高い内容や調査研究に基づいた特集展示などを盛り込み、常設展のセクションの構成に工夫を凝らした。展示方法に関しても、予算上の制約はあるが、様々なアイデアを取り入れて、変化に富んだ展示を目指した。</p> <p>* 企画展観覧者数は目標値の約74%であり、昨年度よりも開催本数が1本減少したことを考えると、一定の水準は達成できた。予算上の制約がある中で、コレクションを積極的に活用し、新しい視点を交えた展示に取り組んだ。「田中保とその時代」では、アメリカの研究者に協力を仰ぎ、海外のデジタルアーカイブも活用して、最新の研究成果を交えた現代的な視点から画家の魅力を紹介した。観覧者数は9,000人を超え、予想以上の反響があった。</p> <p>* 学校の団体利用や授業協力などの評価は未達成ではあるが、学校との連携事業として、ミュージアム・キャラバンの実施や、学校への複製画などの貸し出しなども積極的に行い、一定の水準は達成できた。</p> <p>* 一般展示室の貸出は、コロナ禍により昨年度は61団体の利用にとどまったが、令和4年度はコロナ禍以前に近い水準まで利用団体数が戻ってきており、県民に対して作品発表の場を提供することができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	170,291,000円	職員一人あたりの県民人口	333,239人
収蔵資料総点数 (R4.3末現在)	4,077点	事業経費 (上記の内数)	119,968,000円	利用者一人あたりのコスト (令和3年度)	1,372円
令和3年度 収集資料点数	294点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	44,863,000円 (20,540,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和3年度)	1.83%

(注) 令和4年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,331,256人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料選考評価委員会を2回開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	2月に実施
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収集作品の保存管理要領
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	収集作品の保存管理要領
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	同上
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	貸出等手続はHPで未公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション、企画展で活用
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	近代美術館所蔵作品館外貸出基準
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	近代美術館条例
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収蔵品データベース
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	同上
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	A	定期的に環境調査を実施
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に解説シート等を準備
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	A	ペーパーレス化を図り、壁面等に掲出
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で展示室での解説は未実施
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	可能なものは実施
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	ちらし、ポスター、HP
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	はがき、電話、FAX、電子申請等
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子ども(未就学児を含む)
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	同上
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	同上
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP、年報等での活動報告・予告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	浦和バルコ店との連携
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館の方針を念頭に置き、各個人で設定
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	助成金3件申請、採択2件、不採択1件
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展で成果を公表
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	県内作家の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展示、図録、紀要などで成果を公表
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度策定 10月一部改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	11月実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	設置済み
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設 ・ アメニ ティ	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	トイレ等の音声ガイダンスは未実施
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	B	設置済みであるが目に留まりにくい
	⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	英・中・ハングル語のフロア案内のみ
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体バス受入時に公園路の開放等
施設 の 利 活 用	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	危機管理マニュアル別冊に策定
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで公開済み
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室1~4及び講堂
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室1~4及び講堂
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	6月県展実施
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	高校写真展・書道展実施

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

				評価基準	
				完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
				着手状態乃至課題が残されている状態	B
				未着手状態	C
項目	チェック内容			評価(A~C)	備考
展示事業の実施	①	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか		A	
	②	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか		A	
	③	企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか		B	コロナ禍のため、3密を回避できる講演会等を実施。
	④	展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか		A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤	外部資金の導入に努力しているか		A	芸術文化振興基金
教育普及及び連携・支援活動の実施	①	収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか		B	コロナ禍のため、3密を回避できる解説会のみ実施。
	②	美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか		A	作家との対談、ワークショップなど
	③	授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか		A	
	④	教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか		A	学校、教育事務所を対象に実施
	⑤	館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか		A	
	⑥	教育普及用資料の貸し出しを実施しているか		A	複製画、鑑賞キット、アートカード等
	⑦	大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか		A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他機関との交流・協力事業の実施	①	地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか		A	浦和パルコ店との連携
	②	企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか		A	田中保展

# 令和4年度 博物館施設 総合評価

施設名 近代美術館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	1	3
各館独自	数値目標による評価	2	7

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	82	8	0
各館独自	チェックリストによる評価	12	2	0

## 自己評価総括

評価	<p>・企画展「開館40周年記念展」「田中保とその時代」「桃源郷通行許可証」は、コレクションを多角的な観点から再検証し活用する事例として、一定の成果を上げることができた。「桃源郷通行許可証」では、出品作家とゲストによるアーティスト・トークなど、展示への理解を深めるイベントを対面で開催することができた。</p> <p>・常設展の観覧者数は、好調であった昨年の数値には及ばなかったが、目標値の84%程度は達成できた。夏休み期間にあわせ、デザイン椅子を紹介する「デザインで語るユートピアー1960ー70年代のイタリアから」を開催したり、県内ゆかり作家の調査研究を元にした特集展示を実施するなど、全体のプログラムに工夫を凝らした。</p> <p>・コロナ禍で開催が中止となっていた第70回記念「県展」が、主催者側との連携により、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図りながら3年ぶりに開催されたことは、地域にとどまらず県全体の活性化に繋がり、県立美術館としての役割を果たすことができた。</p>
課題	<p>・展示活動や人数制限が可能なイベントに関しては順調に実施できているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、3密になりやすい展示室内でのイベント(ギャラリートーク、ボランティアのガイドなど)は開催を控えている。</p>
対応の方向	<p>・展示室内でのギャラリートークなどについては、今後、新型コロナウイルス感染症対策の緩和の時期を見極め、段階的な実施を検討していく。</p> <p>・展示室内でのイベントについては、作品の実物を観ながらのギャラリートークなど、臨場感のあるリアルを第一として実施することを基本とし、イベントの再開の時期を見極め、時間等の制限をしながら段階的に本格実施に向けて進めていく。ただし、著作権上の問題が生ぜず、技術的に調整が可能な場合には、引き続き、オンラインでの開催も検討していく。</p> <p>&lt;参考1&gt; 対面でのトークイベントやボランティア活動であっても、展示室内以外では、新型コロナウイルス感染防止の観点を踏まえながら、段階的に再開している。例えば、講堂での催しは参加人数を制限して実施している(企画展関連トークイベント、ミュージアム・カレッジ、ミュージアム・シアター、ミュージアム・レクチャーなど)。また、美術館サポーターによるガイド(ボランティアのガイド)は、定員を絞り、屋外彫刻、建築、館内のフリースペースの作品の案内を再開している。</p> <p>&lt;参考2&gt; オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」(岩槻観光委員会×埼玉県立近代美術館) 岩槻観光委員会の担当者と当館学芸員がオンライントークにより田中保を紹介。 日時:2022年9月10日(土)18:30~19:45、開催方法:オンライン(Zoom)、定員:先着100名(無料)</p>